

## 平成30年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（ 京極 幼稚園）

### 教育目標

一人一人がその子らしさを發揮しながら仲間の中で育ち合う  
心豊かで やさしく たくましく 生きる子

### 年度末の最終評価

自己評価	<p><b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b></p> <p>個人差の大きい年代の子どもたちであるが、今年度の当初の姿に比べて、その向上的変容は大きい。</p> <p>年少組では、幼稚園での生活や遊びに適応し、一人一人の世界から、周りの子ども達と一緒に過ごすことを楽しみ、求めようとする姿が見られるようになってきている。年長児は集団の中で自己を認め合い刺激を受け合いながらたくましく高まっていこうとする姿が見られる。折り合う心が育まれることで心地よい集団となり、心地よい集団の中でさらに自己発揮と自己抑制が調和するようになってきているようである。異年齢での交流によって、やさしさやたくましさも育まれてきている。</p> <p>今後、一人一人を細やかに見ながら、言葉による気持ちや考え方の表現、様々な遊びを通しての身体や心の一層の成長を図りたい。そのための保育の見直しや環境整備を進めたい。また、保育所や小学校との連携を一層強めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>施設設備面の整備充実が進んできている。保育の充実と共に外観も整備する必要がある。</li><li>幼稚園の普段の取組の様子をスライドで見て、ずいぶん幼稚園に対する印象が変わった。感動を覚える場面も多々あった。子どもたちの成長や、保育の充実のための教職員の努力がうかがわれる。いかに絵本に親しませるのかは、検討の余地がある。</li><li>預かり保育の充実ぶりを知らない方が多い。未就園児の保護者にアピールすべきである。園児を増やし、地域の幼稚園から地域の小学校へたくさんの子どもを送り出してほしい。</li><li>これまでの取組を引き続き進めるとともに、魅力を広く発信してほしい。そのために地域からの協力はできる。</li></ul>

### 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月18日	学校運営協議会
最終評価	平成31年 3月29日	学校運営協議会

## (1) 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する

## 保育の改善・充実

### 具体的な取組

- ・子どもの発達・実態に応じて様々な素材やものと触れ合える環境づくりをする。
- ・子どもが遊びたい心動かすような環境構成の工夫や、教師がともに遊び込み、遊びの面白さや楽しさを共有していく様にする。また、一人一人の個性を細やかに捉え、しっかりとねらいをもつて関わっていく様にする。

### (取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児の遊ぶ姿。
- ・事例検討・アンケート項目(1, 3, 4, 5)

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・前週の子どもの姿から保育を考え、日々検討、修正を加えながら進めてきている。個人差は大きいが、子どもが主体的に生き生き遊ぶ姿がよく見られるようになっている。
- ・個別に取り上げて指導の在り方を検討し、共有することで保育の改善・充実が図られてきている。
- ・アンケートではA, Bが9割から10割の評価を得ている。

### 分析(成果と課題)

- ・子どもの姿から保育を考え、改善・充実を図ったり、環境を構成したりすることで、子どもたちは生き生きと元気に遊べているようである。個人差が大きく、十分に遊べていないのではないかという子どもについても日々情報を共有し働きかけをしていく必要がある。

### 分析を踏まえた取組の改善

- ・今後も週案を重視するとともに、カリキュラムマネジメントの視点でも保育を見直すことも考えたい。また、情報共有を密にしてチームとして保育を進める意識を大切にしたい。

### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児の遊ぶ姿。
- ・事例検討・アンケート(1, 3, 4, 5)

### 学校関係者評価

### 学校関係者による意見・支援策

- ・子どもたちは先生と一緒にわいわいと泥んこになって遊べている。京極幼稚園の良い所である。引き続きお願いしたい。
- ・あまり細かい、高い目標をたくさん設定するのではなく、もっと単純な大きい括りの目標でも良いのではないか。

## 最終評価

### 中間評価時に設定した各種指標結果

週案の「前週の姿」を元に週の指導計画を立て、その都度幼児の遊ぶ姿や留意事項などを朱書している。担任がそばにいなくても自分たちで遊びを進めていくようになってきている。また、自分の遊びたいことが似通った子どもがグループで遊ぶ姿も見られる。特に年少児は、年度当初に比べ主体性が増し、たくましさが感じられる。アンケートでは(1, 3, 4, 5)の項目でA, Bの評価で10割。

各種行事を契機とする子ども個人や集団としての伸びが大きいとの評もアンケートに見られる。

自己評価	分析（成果と課題）
	年度当初に比べ、子ども個人としても集団としても、遊びに向かう主体性が高まっている。互いに刺激を受け合い、のびのびと遊ぶ姿が見られるようになってきている。今後、年少児についてはさらに運動的な遊びでも身体や心の成長を促したい。
	分析を踏まえた取組の改善
	今後も子どもの発達・実態を踏まえつつ、遊んでみたいと主体的にかかわり遊べる環境づくりをするとともに、引き続き教師も共に遊び込み、遊びの面白さや楽しさを共有するようとする。また、一人一人を細やかに捉え、しっかりとねらいをもって関わっていくようとする。
	重点目標の達成状況、次年度の課題
	子ども達が主体的に、のびのびと身体や心を動かして遊ぶ姿が見られるようになってきている。さらに運動的な遊びでも身体や心の成長を促す環境設定や支援を進めるようにしたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設設備を改善している。安全面の配慮に加え、外観をきれいにすることは大切である。</li> <li>多種多様な取組、子どもの夢を育むような保育の工夫が見られる。</li> <li>野菜を育て、収穫し、調理してみんなでいただく取組は大変すばらしい。子どもが食べられなかつたものを喜んで食べる様になったりする。食育の推進の取組としてアピールすべきである。</li> <li>様々な経験が保育の充実につながっているということがよくわかる。地域の祭を見学したことで神輿をつくったり、動きをまねてみたり、運動会で表現したりなど感動を覚えた。</li> <li>和太鼓、伝統芸能等、様々な伝統文化に親しむ内容の保育も進められており、素晴らしい取組である。</li> <li>良い取組をしているのであるから、もっと外への発信をすべきである。</li> </ul>

## (2) 小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

具体的な取組	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の小学校と交流し、小学校の生活を知ったり、小学生から刺激をもらったりして子どもの経験の幅を広げ、安心して進学できるようにする。</li> <li>小学校での授業参観と懇談、交流の事前研修、幼小連絡会、また幼稚園の保育を参観してもらうなどの機会に幼稚園の教育内容や活動・子どもの姿を小学校の教師に伝えたり、小学校の様子を知つたりすることで幼稚園での生活の仕方や学びを考え、アプローチカリキュラムの作成に取り組む。</li> <li>「親子で絵本！」では、絵本の大切さや楽しさを知らせ、100冊を目指し取り組む。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間交流計画の作成</li> <li>・「親子で絵本！」の取組の定着</li> <li>・鶴山保育所、京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流、作品展交流 授業参観、懇談会、合同研修会・京極版アプローチカリキュラムの作成・アンケート項目（2, 7, 9）</li> </ul>

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>年間交流計画を話し合い、作成。</li> <li>鶴山保育所とは、相互に訪問し合い、交流保育を行った。そのための事前・事後の話し合いも欠かさず行った。授業や行事の参観に伺った。</li> <li>KKP（上京・烏丸プロジェクト）の合同研修会、懇親会に参加。</li> </ul>

- ・「親子で絵本！」は、既に100冊を達成している家庭もあるが、50冊に満たない家庭もある。
- ・アプローチカリキュラムの様式について検討したが未完成である。
- ・アンケート項目（7）でA評価が5割。（2）でA、B合わせると9割以上。（9）ではA、B合わせると10割。

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴山保育所とは、多くの交流機会を計画的にもつことができているが、小学校との交流は少なかった。小学校とは研究授業・保育の機会に相互に訪問することが難しい。</li> <li>・絵本は保育にしっかりと位置付けているが、家庭によってはどう取り組めばよいかわからなかつたり、ノートに記録することが難しかつたりするようである。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校のカリキュラムから交流を検討できるようにしていく。</li> <li>・園内研究と絡めて自園における子どもたちの「学びに向かう力」や「幼児期の終わりまでに育つてほしい力」を探っていくとともに、それを伝える取組を進めたい。</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴山保育所、京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流、作品展交流、授業参観、懇談会、合同研修会　・「親子で絵本！」の取組の促進</li> <li>・京極版アプローチカリキュラムの作成　・アンケート項目（2、7、9）</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京極、室町小学校との交流は大変意義がある。小学校はどんな所かを見知ることで安心できる。</li> <li>・鶴山保育所との交流で同じ小学校へ上がる子ども同士が親しんでいるので入学後心強い。</li> <li>・小学生も先輩として幼児との交流を待ち望んでいるので、互恵的な取り組みである。</li> </ul>

## 最終評価

自己評価	<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b>
	鶴山保育所とは、引き続き交流保育を計画的に進めると共に、事前事後の検討会の時間ももつことができた。京極、室町小学校とは、授業での交流や給食体験を実施して頂いた。作品展鑑賞に来ていただいたり、授業参観に出かけたりした。KKP（上京・烏丸中学校プロジェクト）合同研修会や懇親会に参加した。「親子で絵本！100さつ」の取組では9割以上の家庭で達成した。アプローチカリキュラムは作成の緒に就いたばかりである。アンケートの（2、9）の項目ではA、B評価が10割であるが、（7）ではA、B評価が9割だが、C評価も7パーセント（実数2）あった。
	<b>分析（成果と課題）</b>

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	地域の保育所とは、計画的に子どもの交流や研修を継続できている。小学校とは実際に交流する学年とは、話し合う機会をもてているが、全校的な取組とまでは至っていない。年長組の子どもは小学校での様々な経験ができ、進学に向けてのイメージや心構えがもてたようである。「親子で絵本！100さつ」は、300冊という家庭もあるが、達成できなかった家庭もあった。アプローチカリキュラムは、先進例を概観するにとどまっている。長期・短期のカリキュラムの作成を検討したい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	小学校とは全校的な取り組みになるよう、年度当初に話し合いの場をもちたい。今年度以上に計画的、積極的に他校種からの来園者が増えるように取り組みたい。絵本室の環境整備を学校運営協議会と進めるようにしたい。

	<p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>近隣の2小学校と交流し、小学校の生活を知ったり、小学生から刺激をもらったりして子どもの経験の幅が広がり、進学に向けての心構えやイメージがもてたようである。保幼小でさらに互恵的な取組となるように、組織的、計画的に連携の取組を進めるようにしたい。幼稚園の生の姿をなるべく多くの他校種の方に見ていただくための取組をすすめるようにする。</p>
学校 関係 者評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子どもをしっかりと集め、地域の小学校へたくさん送り出してほしい。幼稚園の魅力を発信すべきである。保育内容のすばらしさ、働きながらでも通わせられるなど預かり保育も充実している。知らない人が多い。地域の広報誌に記事を載せることもできる。ポスターやチラシを配布することもできる。</li> <li>・「えほん100冊」の取組では、単に数字を上げるためだけでなく、絵本に親しみ、絵本好きな子どもを育てることが大切である。親子で絵本に親しんでいる家庭の取組の様子を年に何度かフィードバックするようにしてはどうか。</li> <li>・小学校での交流の内、給食交流は二年続きでインフルエンザの流行期になってしまった。しかし、あまりに早い時期では、小学校への意識も薄い。小学校とも連携して取り組んでほしい。</li> </ul>

### (3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む心と体・生活習慣

<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な遊具遊びや運動遊びを通して、体を動かして遊ぶ気持ちよさを感じていけるようにする。</li> <li>・家庭での“しつけ”的価値観が多様化している中で、「早寝・早起き・朝ごはん」「挨拶」をはじめとして生活習慣の形成と自立の重要性を保護者に啓発し、保護者と共に子どもの育ちを喜び合えるようにする。また、KKPの保幼小中で目指す子ども像として共有し、連携して取り組む。</li> </ul> <p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階にふさわしい基本的生活習慣の定着に向けた環境構成と保護者、保小中との連携・啓発</li> <li>・体を動かしたくなる環境構成と運動遊びを取り入れた保育計画</li> <li>・週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児が体を動かして遊ぶ姿</li> <li>・事例検討　・幼児出席簿、保健日誌　・アンケート項目（3, 6, 9, 10）</li> </ul>
---

### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の定着に向けて、資料を掲示したり、保健指導の時間を設けたりした。儀式的行事の際に保護者に話したり、お便りで伝えたりした。</li> <li>・狭い環境の中で運動量と安全面の確保を図るようにした。</li> <li>・猛暑の中でも水分補給やエアコンの利用等を進めながら、体調管理を行った。熱中症等はなかった。</li> <li>・遠足等でも長い距離を歩き切る力や精神力も高まってきている。活発に運動的な遊びに向かう姿がよく見られる。</li> <li>・感染症による大人数の欠席や、長期の病気欠席の子どもはいなかった。</li> <li>・アンケート（3, 6, 9, 10）では、A, B評価の合計が9割以上である。（6）ではA評価が6割程度。</li> </ul>
---

自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変厳しい天候であったが、子どもたちは健康に過ごすことができた。狭い環境の中でもかなりの運動量を確保することもできたようである。1学期には長い距離を歩くことがしんどい子どもたちも最後まで歩き切ることができるようになってきている。</li> <li>・保護者の協力もあり、健康に関する基本的生活習慣の定着も向上してきているようである。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、健康に関する基本的生活習慣の定着を家庭とも連携して進めていくようとする。また KKP とも連携した取組を進めたい。</li> <li>・屋上の整備を進め、さらに運動量の確保を図るようにする。</li> </ul> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に相応しい基本的生活習慣の定着に向けた環境構成と保護者、保小中との連携・啓発</li> <li>・体を動かしたくなる環境構成と運動遊びを取り入れた保育計画</li> <li>・週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児が体を動かして遊ぶ姿</li> <li>・事例検討 ・幼児出席簿、保健日誌 ・環境整備 ・アンケート項目（3, 6, 9, 10）</li> </ul>
	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狭い幼稚園であるが、子どもたちは体をよく動かして遊んでいるようである。</li> <li>・運動会では、子どもの生活、興味・関心の中から運動の意欲を引き出す取組の一端が見られた。</li> <li>・4歳児も大文字山に登り達成感を味わえている。近隣の幼稚園へも歩いて出かけられている。</li> <li>・今後も屋上他、環境整備に努めること。</li> </ul>

## 最終評価

自己評価	<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」「手洗い・うがい」「挨拶」「咳エチケット」など基本的生活習慣の定着に向けて、折に触れて保護者に話したり、お便りで伝えたり、資料を掲示したり、保健指導の時間を設けたりした。遊具や設備の整備を進めた。また、各部屋に空気清浄機を設置した。</p> <p>インフルエンザ等による学級閉鎖は無かった。</p> <p>アンケート項目（3, 9）では、A, B評価が10割。（6, 10）でもA, B評価が9割以上あるが、C評価が3パーセント（実数1）あった。</p> <p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>各部屋に空気清浄機を設置した効果もあってか、インフルエンザによる学級閉鎖は無かった。長期の病気欠席の子どももいなかった。朝マラソンや遠足等でも長い距離を走ったり、歩き切ったりする体力や精神力も高まっている。</p> <p>さらに運動的な遊びを通して、身体や心のたくましさを高めるための環境構成や遊びの支援を進めないようにしたい。遊具の塗装等は行ったが、屋上の整備は進んでいない。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>さらに子ども自らが体を動かしたくなる環境構成や運動遊びを取り入れた保育計画を進めるようする。引き続き家庭やKKPとも連携して望ましい基本的生活習慣の定着を進めようする。</p> <p>屋上をはじめとして環境整備を進める。</p>

	<p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>基本的な生活習慣の定着には、家庭と園との連携した取組が必要であるが、個人差があるというものの十分でないと評価されている。それでも、年度当初からの向上的変容は小さくない。わずかな変容も捉え、共に喜び合えるようにしていきたい。遊具遊びや運動遊びが少ない子どもたちにも体を動かして遊ぶ気持ちよさをより多く味わわせられるように取組を進めたい。</p>
学校 関係 者評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔とはずいぶん子育てや子どもの様子が変わってきてている。また、乳幼児を抱える保護者は、早い時期から保育施設を探し始めている。京極幼稚園の良さをアピールすべきである。広報等協力できることは協力していく。</li> </ul>

#### (4) 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

##### **信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え**

	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に関わって遊ぶ中で友達の良さに気付いたり、自信をもったりする姿を子ども同士が互いに認め合う温かな人間関係を築く。</li> <li>遊びや生活の中でのトラブルでは、相手の気持ちを知ったり、自分の気持ちを伝えたりして歩み寄り、折り合いをつけて遊びや生活を進められるように援助する。</li> </ul> <p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児の姿。</li> <li>事例検討 ・アンケート項目（1, 2）</li> </ul>
--	---

#### 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思わず手が出たりする場面や泣いてなかなか気持ちを切り替えられなかったりすることが少なくなった。仲間と一緒に遊ぶ姿が増えてきた。</li> <li>アンケート1, 2ともA, B評価の合計が9割以上であるが、C評価もある（実数1名）。</li> </ul>
自己 評 価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや生活を通して仲間意識が高まっている様子である。特に年少児は、仲間と一緒にすることや遊ぶことが楽しいと思える間柄になってきている。</li> <li>仲間と過ごす中で、自分の思いを十分に出せずにいる子どももいる。一人遊びの時間が長い子どももいる。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き一人一人の思いを見極めながら、グループや学級全体、園全体など、様々な形や規模での遊びや生活を通して、様々な経験や感情体験ができるような保育を組み込むようにする。</li> <li>思いや考えをその子どもなりに表現できるように、また、相手とのやり取りができるように、機会をとらえて援助するようにする。</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児の姿。</li> <li>事例検討 ・アンケート項目（1, 2）</li> </ul>

学校 関係者 評価	学校関係者による意見・支援策
	<p>・価値観の多様化でしつけも多様化している。また、核家族化、少子化、閉鎖性などにより、孤立している家庭も増えているのではないか。各家庭の「普通」が、実は「普通」ではないということが自覚できない。ほかの家庭がどんなふうにしているのか、どんなサンプルがあるのか共有できないでいる。子育ての支援ができないか。うさぎ組の広報をもっと進めてはどうか。</p>

## 最終評価

自己 評価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<p>常に担任が一緒でないと自分たちだけでは遊びを進めていけないということがなくなってきた。また、グループでのびのび遊ぶ姿も見られる。各種行事も子ども個人や集団を大きく伸ばすきっかけになっている。そんな中でトラブルや困りごとがたびたび起こるが、年長組では多くの場合自分たちで解決しているし、年少組でも教師の援助を受けて気持ちを伝え合ったり、切り替えようしたりしている姿が見られる。アンケート項目（1、2）では、A、Bの評価が10割であった。</p>
	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>特に年長組では、グループや学級全体での遊びを楽しむ姿がよく見られる。集団の良さや楽しさを、遊びを通して実感できるようになってきており、トラブルがあっても折り合いをつけるなどして乗り越えられるようになってきているのだろう。中には自分の思いをうまく表現できない子どももいる。思いを伝えたいという気持ちやスキル等も一人一人、その場その場に合わせて高めていくようにしたい。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>今後も友達と一緒に遊ぶ中で友達の良さに気付いたり、自分の良さに気づき自信をもつたりするなど子ども同士が互いに認め合う温かな人間関係を集団の遊びや生活の中で築けるようにする。遊びや生活の中でのトラブルを通して、様々な感情体験するとともに、相手の気持ちを知ったり、自分の気持ちを伝えたりして歩み寄り、折り合いをつけるよい機会ととらえて援助する。気持ちを表現しようとする意欲やスキルを折に触れて高めるようにする。</p>
	<p><b>重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>遊びや生活を通して仲間意識がさらに高まりつつあることがうかがわれる。年長組では折り合う心が育つことで集団での遊びや生活が一層楽しく心地の良いものになってきているようである。年少組でも、一人遊びより、仲間と一緒にいることや遊ぶことが楽しいと思えるようになってきている。仲間と過ごす中で、様々な感情体験をし、相手の気持ちを知ったり、自分の気持ちを伝えたりして歩み寄り、折り合いをつけようとする姿も見られる。今後ものびのびと自己発揮を促しながら、集団の中で周りを意識した自己抑制も働くよう、一人一人を細やかに見、一人一人に即した援助をしていきたい。気持ちを表現したり伝えようしたりする意欲やスキルを折に触れて高めるようにしていきたい。</p>
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい行事以外で幼稚園の普段の取組の様子は、なかなか見ることができない。スライドを見て、ずいぶん幼稚園に対する印象が変わった。感動する場面が多々あった。子どもたちのがんばっている様子、先生方の努力がうかがわれる。</li> <li>・元保護者として、スライドでの子どもの姿を見て、やはりここの幼稚園でよかったですと改めて思う。この取組を引き続き進めるとともに、広く発信してほしい。</li> </ul>